

第1部会【市民協働部門】 会議概要録

【開催概要】

- 名 称：平成25年度 第6回 東区自治協議会 第1部会
- 日 時：平成25年10月8日（火）午前9時30分～午前11時30分
- 場 所：東区プラザ 音楽練習室2
- 出席者：五十嵐委員、大野委員、折笠委員、作左部委員、南委員、
井川委員、佐藤委員、若槻委員、渡辺委員
（事務局）地域課、総務課

【審議内容】

1 自治基本条例および地域（区）における自治の深化について

政策調整課から自治基本条例の見直しの経緯について、市民協働課から平成26年度の実施に向けて検討している「区民との協働」について説明がありました。

委員からは、コミュニティ協議会の位置づけを明確にするよう意見がでました。

＜政策調整課の説明概要＞

自治基本条例の見直しについて、内部検証の後、外部委員会を設置。平成24年7月以降計7回の会議で検討した結果、条例自体の見直しの必要はないが、①条例の趣旨に沿った運用がされているかチェックしてほしい、②実情に合わせた支援策対応を考えてほしい、との提言をいただいた。

提言を受けて所管課に検討を依頼。市民協働課が「自治の深化」の中の「地域コミュニティ協議会とのさらなる協働」について検討している。

2 特色ある区づくり事業（区役所企画事業）について

総務課から、平成25年度実施事業の評価と来年度の方針、また、平成26年度自治協議会委員からの提案事業に対する区役所の検討結果の説明があり、事務局案のとおり了承しました。引き続き、第1部会と総務課が連携しながら事業を進めていきます。

3 災害時の避難・誘導対策推進事業（自治協議会提案事業）について

（仮称）「東区避難誘導対策推進提言書」の策定に向け、ミニワークショップがスタートしました。これまでの開催実績は下記のとおりです。

○9月29日（日）大形コミュニティ協議会（津島屋地区）

参加者：津島屋住民40名 概要録：「別紙1」のとおり

○10月6日（日）大形コミュニティ協議会（大形本町地区）

参加者：大形本町住民22名 概要録：「別紙2」のとおり

○10月13日（日）大形コミュニティ協議会（一日市地区）

参加者：一日市住民17名 概要録：「別紙3」のとおり

今後の開催スケジュールは下記のとおりです。

○11月24日（日）下山コミュニティ協議会（対象地区は検討中）

○12月 8日（日）下山コミュニティ協議会（対象地区は検討中）

4 その他

次回開催日 平成25年11月12日（火）午前10時から 東区プラザ音楽練習室2

第 1 回津島屋 3 自治会合同ワークショップ概要録

【開催概要】

- 日 時：平成 25 年 9 月 29 日（日）午前 10 時～12 時
- 会 場：津島屋会館（東区津島屋 3 丁目 73-2）
- 参加者：津島屋住民 40 名
（津島屋第 1 8 名、津島屋第 2 20 名、津島屋第 3 9 名、その他 3 名）

【ワークショップ検討結果】

- 津島屋第 1 自治会
 - ・ 応急的な措置として、ござれや橋のたもとに盛土を作る。
 - ・ 近いところちかいところに、車いすでも登れる施設を整備する。
→今年度は、河岸海岸エリアについて津波避難場所の調査などを行ないます（業者委託済）。
また、次年度もハード対策のための予算を要望しています。
- 津島屋第 2 自治会
 - ・ 地図上に避難場所と収容人数を明確にする。
 - ・ 津島屋地内に防災用のスピーカーを設置する。（現状はない）
→防災同報無線の拡充のため、次年度の予算を要望しています。設置については、北区で実施した試験放送の結果などを勘案して進めていきます。
 - ・ あおい幼稚園と一正蒲鉾で人数の振り分けをして、地図上で明確にする。
- 津島屋第 3 自治会
 - ・ 津島屋公園の体育館の駐車場のあたり、避難タワーを設置する。
 - ・ 津島屋大橋に逃げ込むことも可能だろう。
 - ・ 鉄筋造りのところ、フードリンクさんと（逃げ込むことは可能か）協議していければ。

【質疑応答】

- ・ 北区松浜地区の防災スピーカーの検証について（総務課回答）
→10/6 に試験放送を実施。音声伝達範囲の検証を行ない、防災同報無線の整備を行っていきま
す。
→後日談として、総務課では、津島屋地区に同報無線を設置する予算要求をしています。現在、
新潟市で進めている発災時の広報は、防災メールや防災ラジオ及び各メディア等より多くの個
人に直接届ける方法もありますが、総務課では、屋外活動中の市民への情報伝達に有効な同報
無線を、津島屋地区を含め必要箇所に設置するための予算要求をしています。

第1回大形本町3自治会合同ワークショップ概要録

【開催概要】

- 日 時：平成25年10月6日（日）午後1時30分～3時30分
- 会 場：大形公民館（東区海老ヶ瀬615-1）
- 参加者：大形本町住民 22名
（大形本町第1 9名、大形本町第2 8名、大形本町第3 5名）

【ワークショップ検討結果】

- 大形本町第1自治会
 - ・通学路を歩いて学校まで行けるので道路上の問題点はないが、人が殺到する場合高齢者の避難が心配。
 - ・スクールゾーンは混雑するので、避難ルートとして避ける。
 - ・自力で避難できない人をどう避難させるか。
- 大形本町第2自治会
 - ・問題は災害をどのように周知し一刻も早く避難するか。→自治会として様々な取り組みを実施
 - ・各自が身の安全を確保して小学校に避難する。まずは大形小学校へ！
 - ・学校が閉まっていたら、ガラスを割ってでも中に入る。
 - ・避難場所に行ってみて確かめることが大事である。
 - ・自治会で出来ることはやっていき、さらなる充実を図っていきたい。
- 大形本町第3自治会
 - ・県と市の指針を待ってからと思っていたが、今後独自でやっていきたい。
 - ・阿賀野川の位置づけ、阿賀野川と通船川との関連はどうか。
→県から中小河川を含めた津波浸水想定が発表されたら情報提供していきます。
 - ・マニュアルどおりではいけない。（東日本大震災から学んだこと）
 - ・まずは自分が助かるためにはどうしたらいいか、今後そんなことを中心に考えてもらおうと思っている。
 - ・小学校に渡る細い歩道橋、自力で渡れない高齢者はどうしたらいいか、関係者と相談していきたい。

【質疑応答】

特になし

第1回一日市町内会ワークショップ概要録

【開催概要】

- 日 時：平成25年10月13日（日）午前10時～12時
- 会 場：一日市会館（東区一日市968-2）
- 参加者：一日市住民 17名

【ワークショップ検討結果】

- 1班
 - ・避難場所が少ない。
 - ・避難所を皆が把握しておくことが必要
 - 昨年度、市指定避難所・津波避難ビルなどを掲載した「ひなん地図」を、大形地区コミュニティ協議会と協働で作成し、大形地区の約5,800世帯へ全戸配布しました。
 - ・基本的に高台へ避難する。下流の人は7号バイパス高台へ、上流の人は太平橋ふもとへ。
 - ・1次避難所として受け入れをしてくれる創価学会の会館へ避難する。
 - ・バイパス等は高さはあるが、季節や天候によっては子どもや年寄りには大変
 - ・避難場所に行くまでの経路の確認
 - ・現実に有効な避難経路、避難手段の確認
 - ・役員だけでなく、地域全体で防災に対する意識を高めていく。
 - ・町内の防災訓練をする。
 - ・近所の家族や一人暮らしの人など誰がいるか把握できていない。
 - ・一人暮らしの方等、町内家族構成の確認
- 2班
 - ・バイパスに登れるようにしてほしい。
 - ・地下道のあたりに待機場所を作ってもらいたい。
 - ・一日市町内に公共物を建設する。
 - ・中心部に高層ビルを建設したほうが良い。
 - ・近くに一日市の住民が避難できるような、5階建て位のアパートをお願いしたい。
 - ・一日市～海老ヶ瀬線の一市地内に、4～5階建てのアパートを2～3棟建設してほしい。
 - ・一日市の町内の近く、一日市とバイパスの間に、例えば県営アパート他の高い建物を建て避難所としてほしい。
 - 今年度は、河川海岸エリアについて津波避難場所の調査などを行ないます（業者委託済）。
 - また、次年度もハード対策のための予算を要望しています。
- 3班
 - ・1次的に一番早く逃げるには、堤防に避難すること。
 - ・安浄寺の補強
 - ・サイレン設備の増強（消防小屋にあるサイレンを松浜地区にあるサイレンと連動する方法で修理したらどうか）

- 防災同報無線の拡充のため、次年度の予算を要望しています。設置については、北区で実施された試験放送の結果などを勘案して進めていきます。
- 後日総務課調査の結果、既存施設の転用については、関係課との協議や設備の追加が必要になるとのこと。この地区も津島屋地区と同様、同報無線設置の予定箇所として次年度予算を要望しており、推移を見守るしかない。しかし、個人対策として防災メールの登録等できることから始めてほしい。

【質疑応答】

特になし